

成果発表では、学んだプログラミングを生かして製作したアプリなど、学習の成果を披露している



プログラミングを学んだ成果を発表

スパルタキャンプを受講してプログラミングを学んだ受講者は、それぞれがアプリの開発に挑戦し、講座最終日に成果発表をしています。

これまで、高齢者がかかりつけ医に体調を報告するアプリや特産品の販売サイト、SDGs（持続的な開発目標）を啓発するアプリなどを発表しました。

第7期（7月）の受講者10人は、平泉の観光や食、伝統工芸、業務効率化などをテーマに、利便性の向上や情報発信の充実につながるアプリを製作しました。

受講者の声



第7期受講者(東京都)
にしぎきりな
西崎 理和さん

もともと観光や地方創生に興味があり、将来は日本の観光に関わりたいたいと考えています。ChatGPT(対話型人工知能)システムに関心があり、プログラミングを学びたいので、スパルタキャンプに参加しました。この学びを生かしながら、高校卒業後はヨーロッパの大学に進学してコンピューターサイエンスを学びたいと考えています。



第7期受講者(町内在住)
ささきゆうや
佐々木優弥さん

伝統工芸品の「秀衡塗」漆器を制作・販売しています。今の時代にできることを考え、次の世代が挑戦しやすくなるヒントを与えられればと、スパルタキャンプに参加しました。秀衡塗を楽しめる提案ができるアプリの開発を考えています。歴史あるまち平泉と、最先端のプログラミングが融合することで、より良い形を模索していきたいです。



第7、8期受講者(横浜市)
みやひらしゅうた
宮平 聖太さん

音楽関係の仕事をしていましたが、楽器のシェアサービス事業をしたいと考え、短期間でプログラミングを身に付けられるスパルタキャンプを受講しました。シェアハウスに滞在し、旅行では気付けない平泉の人の温かさに触れました。平泉で出会った仲間とライブの開催を計画しています。平泉の皆さんが楽しめるイベントにしたいです。

Keyword

スパルタキャンプin平泉町

即戦力となるデジタル人材を養成するとともに、就職や起業による町への定着を促進して地域活性化につなげるため、令和3年度に開始した高校生・一般向けプログラミング講座。講座は土・日曜に開き、数カ月かけてプログラミング言語の中から「Python」「PHP」を組み合わせ、ソフトやアプリなどの開発の基本を学習する。地域の企業などが抱える業務上の課題を吸い上げ、学習成果をその課題の解決や生産性の向上に結び付けるための役割も担う。

詳しくはこちら↓



「スパルタキャンプin平泉町」で、プログラミングを学ぶ受講者たち。志を持った人が全国各地から集まり、受講を契機に町内に移住する人のほか、平泉との関わりを深める人も出ている

スパルタキャンプin平泉町 受講者延べ100人超える

■問い合わせ先…まちづくり推進課 ☎46-5578

町への関わりを深め、移住者も

町がデジタル人材の育成や定着を目的に令和3年度から実施しているプログラミング講座「スパルタキャンプin平泉町」は、受講者が延べ100人を超えました。1コース8〜12回の講義を土・日曜に開催し、平日の課題にも取り組むことで集中的にプログラミングの知識や技術を無料で学べるのが特徴。受講をきっかけに町内へ移住する人のほか、学びを生かして平泉との関わりをさらに深める人も出ています。

講座は、プログラミング教育を展開する株式会社ネクストレポリレーション(八幡平市、高橋一真代表取締役)と連携し、株式会社長島製作所(一関市、新宮由紀子代表取締役)の協力を受け、長島製作所平泉工場を会場に開催。コースごとに、ウェブアプリの開発や機械学習などに使われるプログラミング言語「Python」(パイソン)や、ウェブページの生成に使われる「PHP」を短期集中で学びます。

8月19日に始まった第8期は、9月24日まで全12回、全国各地の20〜50歳代の11人が「PHP」の基礎文法を学

び、ウェブアプリの作成に欠かせない技術の習得を目指しています。これまでの受講者の約7割は県外出身者。受講を機に初めて平泉を訪れる人が多く、町志業シェアハウスに滞在してほかの受講者と共同生活しながら、切磋琢磨して知識を身に付けます。

第3〜5期受講後に東京都から町内に移住し、町地域おこし協力隊として活動する山内彩さんは「受講と滞在中、ほかの受講者や町民など多くの人と関わる中でコミュニケーションができて、移住するハードルが低くなった」と意義を語ります。

1回の講義時間は午前8時30分〜午後6時30分。受講者は集中して知識の習得に励む

